

静岡

「日本初『旅ブーム』を起こした 弥次さん喜多さん、駿州の旅」が日本遺産に認定

藤枝市・静岡市は、古くから東西を結ぶ交通の要衝とされてきました。特に江戸時代以降は主要な官道であった「東海道」を中心に多くの人や物が行き交い、その往来の歴史とともにまちを発展させ、さまざまな文化を育んできました。これら東海道とともに育まれた歴史や文化は、この地域にとって大変貴重な地域資源です。平成30年11月に開催された「全国街道交流会議第12回全国大会しずおか大会プレシンポジウム」の中で、藤枝市・静岡市の両首長は、東海道の歴史や文化などの地域資源を活用した観光振興に取組むことで合意しました。その取組のひとつとして、藤枝市と静岡市では、令和2年1月に文化庁の日本遺産制度への共同申請を行いました。

この日本遺産制度は、地域に点在する歴史文化遺産を繋ぎ、地域の歴史や特色をストーリーに仕立てて表現するものです。地域を「面」として捉え広く活用、発信することで、効果的な観光振興、さらには地域全体の活性化につなげる狙いがあります。

藤枝市と静岡市では、十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」や歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」をテーマに、東海道の蒲原宿から藤枝宿までの「2峠8宿」エリアに点在する32の歴史文化遺産をつないでストーリーを作成しました。かつて多くの庶民が憧れた旅の醍醐味「喜怒哀楽との出会い」が今でも味わえる場所

としてこの地域の魅力をPRしました。認定にあたり行われた文化庁の専門家による審査会では、「日本人が忘れた旅の原点とも言うべき弥次喜多の旅の物語として興味深い」「東海道の中でも歴史や景観を色濃く残す地域で大きな可能性を感じる」との評価をいただきました。そして令和2年6月19日に「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅-滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)」として日本遺産に認定されました。

この認定を受け、藤枝市と静岡市は、同年7月に両市の行政及び商工関係団体、観光関係団体からなる「駿州の旅日本遺産推進協議会」を設立し、日本遺産を活用した各種事業への取組みを開始しました。日本遺産事業に係る文化庁の補助金の交付期間は3年間と限られています。協議会では補助金を効果的に活用し、実効性の高い事業展開を図るため、初年度においてグランドデザイン及びマーケティング戦略を策定し、人材育成や商品造成、情報発信のほか、看板やお休み処の整備など観光客の受入環境の一体的な整備を推進していきます。また、事業の推進にあたっては、地域活動団体や民間事業者などの積極的な参画や連携に努め、郷土愛の醸成を図りながら、より地域に根差した持続可能な街道観光の確立と地域経済の活性化を目指していく予定です。



江戸後期に建てられた「岡部宿大旅籠柏屋」では当時の旅の様子を学ぶことができる

多くの旅人が憧れた「薩埵峠」からの眺望